

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和6年5月10日発行 文責 校長 中尾 聡彦

1年生を全校児童生徒で迎える歓迎集会がありました！

4月23日(火)の朝の時間に、1年生を全校児童生徒で迎える「歓迎集会」がありました。児童生徒会本部が進行を務めながら集会が始まりました。

まず、司会に促され 17 名の1年生が入場してきました。先頭、中間、最後尾には9年生が配置されており、1年生と9年生が手をつなぎながらの入場でした。とても微笑ましく、義務教育学校ならではの光景でした。

その後、1年生は一人一人、自己紹介と自分の好きな動物を紹介してくれました。それを受けて、2年生から9年生は各学年それぞれにメッセージを贈り、集会は終わりました。

1年生は、毎朝、大きなランドセルを背負い、両手には体操服などの荷物をもって登校しています。困っている子の荷物は6年生がさりげなく持ってくれています。6年生の自然に手を差し伸べる優しさは南波多町のあたたかな地域性が育てているものだと思います。これからも大切にしていきたいと思います。



「見守り隊」の方々と下校

4月17日(水)に、「見守り隊」の方々と顔合わせがありました。

日頃からお世話になってはいますが、みなさんと顔を合わせるのは、この機会ぐらいしかありません。みなさん、おそろいのグリーンジャケットを身に付け、お忙しい中に駆けつけていただきました。お一人お一人の自己紹介があり、その都度、子どもたちは「よろしくお願いします。」とあいさつをしていました。中には、子どもたちのあいさつの後に、「まかせとけ！」という言葉をかけていただく方もいらっしゃいました。地域の方々の見守りを心強く感じました。

また、地域の方々に見守られながら下校する1年生の背中が嬉しそうに見えました。

今後ともよろしくお願いいたします。

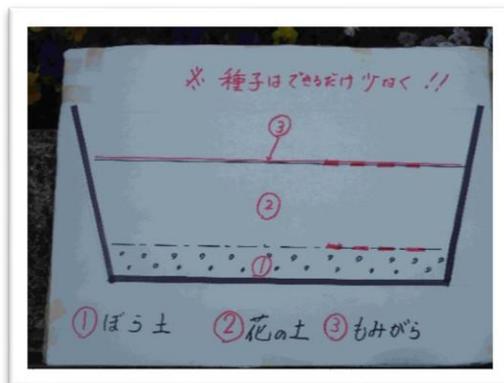


「台湾ツバメシジミ」と「シバハギ」

4月17日(水)に、地域の方々のご協力を得て「シバハギ」の種を植えました。みなさんは、「シバハギ」がどのような植物であるのかご存じでしょうか。

伊万里市のホームページに詳しい情報が載っていますが、「シバハギ」は、希少な台湾ツバメシジミという30mmほどの蝶が繁殖するために不可欠な植物だそうです。台湾ツバメシジミは、環境省のレッドリストでは「絶滅危惧1B類(近い将来、野生での絶滅の危険性が高いもの)」に位置づけられている蝶で、大野岳山頂はその繁殖地として市の天然記念物に指定されています。

本校は、大野岳台湾ツバメシジミ保存会の方々のご協力を得ながら保護活動に参加させていただいています。



「ふるさと探訪」を通して

5月2日(木)に、ふるさと探訪が行われました。今年度からステージ2以上の学習として位置づけたので、5年生以上が全行程12kmを歩きながら、南波多町の歴史にふれました。

今年、「府招・小麦原」方面で、主な見学地は、「白峯宮と金毘羅神社」「富田神社」「椎ノ峰窯跡」でした。子どもたちは、各見学地で講師の3名の先生方(松尾有雅様、浦田丈一様、富永浩通様)の丁寧な説明を聞きながら熱心にメモをとっていました。



見学地の歴史にふれながらその場所にいますと、タイムスリップしたような感覚になりました。ふるさとのことは知っているようで意外と知らないものです。

子どもたちにとっては貴重な体験になりましたし、ふるさと南波多町のすばらしさを再確認できた一日になったのではないかと思います。

講師の先生方には、この日に向けて資料を整理し、子どもたちにどう話せば伝わるかと随分時間をかけて準備をしていただきました。本当にありがとうございました。